

できることから始めよう 命をつなぐ日頃の備え

阪神・淡路大震災から20年、東日本大震災から4年経過しました。これらの教訓を踏まえて、今後発生が予想される巨大地震の脅威と、災害に備えることの大切さを改めて感じるのではないのでしょうか。災害は、いつ起こるか分かりません。

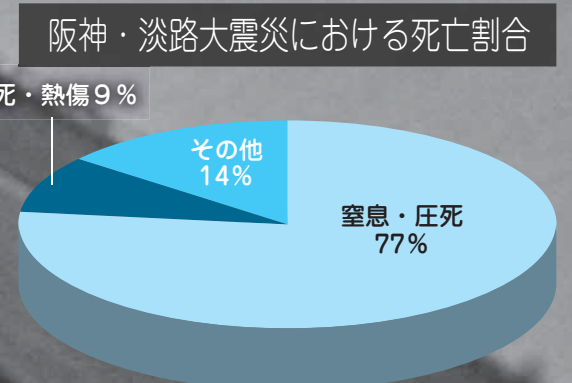
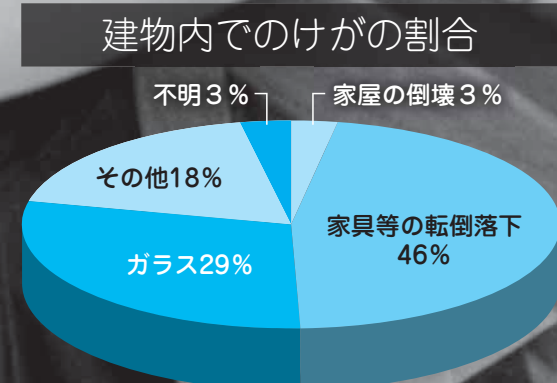
阪神淡路大震災では、地震発生時刻が早朝ということもあり、亡くなった方の約8割が家屋の倒壊や家具の転倒による圧死や窒息死でした。

このことから大地震に対しては、

- ・つぶれない家に住むこと
- ・家具固定を徹底すること

が非常に重要です。がれきに閉じ込められたり、転倒した家具だけがをして、動けなくなったりすると、後から来るであろう津波や火災に巻き込まれるかもしれません。自分が無傷であればこそ、避難すること、家族やご近所さんを助けることもできるのです。

皆さん、
「今」できる備えは、「今」やりませんか？



日本建築学会「阪神・淡路大震災住宅内部被害調査報告書」より

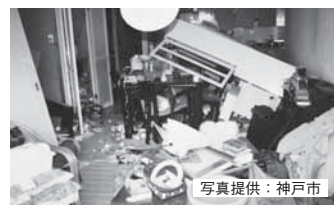
厚生省大臣官房統計情報部「人口動態統計からみた阪神・淡路大震災による死亡の状況（1995.12）」より

阪神・淡路大震災を経験して

有田市民の皆さんの多くは大きな地震を経験されたことはありません。そこで、阪神・淡路大震災を震源地近くで経験された嶋田周子さんに、当時の様子と、いつ起こるか分からない大地震への備えについてお話を聞きました。

家から出るにも簡単ではありません

当時、私は学生で、神戸市東灘区のマンションに住んでいました。1月17日午前5時46分、突然下から突き上げられる激しい揺れが起こりました。20秒を超える揺れでしたが、最後の5秒は特に激しく、死を覚悟したほどです。



地震が治まった後の部屋は、停電したことで真っ暗でした。外に出るため玄関へ向かうとした時、足に何か物があたって、何か踏んだり、ドア周辺の荷物が散乱して開けにくかったりと、簡単にはいきませんでした。後で部屋を確認すると、家具やテレビが倒れ、割れた食器や窓ガラスが床に散乱するなど、本当にひどい有り様でした。外に出ると、建物が崩れたせいで、砂ぼこりがすく舞っていて、事の大きさに気付かされました。倒れた家に閉じ込められた子どもの

名前を呼び続けるお母さん、何とか助けようとするお父さん、行方不明のお兄さんを大きな声で呼びかけながら探す弟さんなど、今振り返っても、当時の記憶が頭から離れることはありません。

自分の、家族の命を繋げるために

南海トラフ沿いで大地震が起こると言われていますね。地震の後には津波も押し寄せると・・・。地震は何の前触れもなく突然起こります。すぐ避難するには、家の耐震はもちろん、家具を固定することがとても大切です。ほんの少しの対策で、自分の、そして家族の命を守ることに繋がります。家具を固定することは、今からでもすぐに取りかかれます。まだされていないご家庭はすぐに取りかかってほしいですね。



すぐできる！我が家の防災対策

家庭でできる防災対策が地震の際に大きな力を発揮します。皆さんの家は大丈夫ですか？防災用品はお近くのホームセンターなどですぐに手に入ります。できることからしていきましょう！

- ①家具は柱や壁などに金具等で強度のある下地材などに固定する
- ②テレビや冷蔵庫を固定する（テレビ台も可能な限り床、壁に固定）
- ③食器棚などの扉に、開き防止・飛び出し防止を行う
- ④ガラス製品（窓、家具）に飛散防止フィルムをはる

- ⑤寝室や出入り口付近に家具を置かない、または、寝ている上に倒れてこないよう配置を工夫する
- ⑥寝室には脱出用の履物やラジオを用意しておく

すぐできなくても後にやっておきたいこと

住宅の耐震診断、耐震補強をする